



成長の姿

——現在小学校三年生——

堀 合 文 子

前号に続き成長の姿をみてみよう。

卒業する時は皆「よい子」になって、小学校へ送るのがおしくなるのは誰もが思うことで、いくら問題でもまた困る子でも一応年齢もくるのか、そう目立たなくまあまあよい子として、ある程度なおったり、問題が解決して卒業していくものである。

卒業後数年、あの子どもはどんなか、と心配するのも親心であろう。

幼稚園時代にすっかり短所なり欠点を教育できなかったことを一応おわびして話をはじめよう。

× × × × × × × × × ×

○生活的に問題のあった人

Aさんの場合

小学校の先生の雑談の時も今までいつも話題になる人で、私の方から提出する人としても、まず上ってくる人である。

幼稚園時代は、

能力はあるが、生活態度がよくなく、友だちと融和できず社会性に欠けている。具体的に言うとうと、暴力をふるったり何もしない人にAさんからくっつかかかったり、ゆきずりにポカンポカンとぶったりしてゆき、友だちの口からは常にAさんの名前ばかり聞き、その現場はなかなかつかめなかった。双方の事情を聞いたり、現場をつかんでと一日中かかりきりで尾行したり、叱ったり、おだてたり種々手をかえて努力してみたが、その時はにこにこし、悪そうな顔もし理解してくれたいがもうそれが終り私が右をむくともう次に事件をおこして、叱られた同じ事件をくりかえしている状態でこちら

一人。父は会社員、自宅環境も普通)

以上幼稚園からの提案者は二人とも幼稚園時代の観察との差異はそうなかった。持っている性格とは言うものの、やはり母親の協力さえ加われれば、ある程度の進歩はあるが、大体問題とする点は変わらないことがわかったようだ。

男子が何かと問題になるが、女子もないこともない。がたいしたこともなかったが一例を上げるとTさんは一人っ子で幼稚園時代はわがままで女の人としてはいじわるのためよく争が多く自分のおもうようにならぬとつねたりするくらい強い人であったがその後のことを伺うと、

小学校へ入学してからは体質が異常に肥満し、そのためか、幼稚園時代とは変り、すっかり自身を失い、気も弱くなってしまっている。体操もそのような状態なので自分からやろうとせず、やれぬときめてしまう。学習の方もあまりかんばしくない。こんなようなうすで幼稚園側として心配していたことは解消していたらしい。

何がどんなことで変化するかということもあるおもしろい例だ。

X X X X X X X

以上、書いてみれば大きな問題でもないようである。けれどもこのような小さなことも、その子どもにとって、また受持ちの私にとっても大事なことで、大きな問題であると思われる。

こうして小学校へ進学してからのようすを伺ってみると、やっぱりと自分が反省させられる。

小学校との幼年教育問題も言われているが、なかなかむずかしい。幼稚園教育ということをもっと重要視していただき、幼稚園時代をより進めてほしいと思う。幼稚園では卒業の時に一応ある程度の進歩をみとめて送るが、その後の前進のようすが何か私どもにものたりなく、後退、前進でなく前進前進でゆくならばと常に考える。

前号に引続き幼児の成長の姿をながめてみたが、結果としては、前と同じ、力の弱いものは大して進歩もないくらいの簡単な結果しかでなかったが、現在小学校三年のこの人たちの成長は何か私どもの今の現場の幼児の教育に考えさせられる点を与えられ、また刺戟されたことを感謝している。また同時になかなか与えられることのない小学校の先生との御話を伺い、小学校の先生がどんなにか目の前の学習のみにおちいらず、生活、性格の指導を常に心がけていて下さるかということがはつきりわかり、進学した幼児たちも幸だと重ねて感謝する。親心のような安心感を味わったのである。幼児の成長の姿とともに大きな収穫だったと思うのである。